

東南アジア熱帯雨林樹木のニッチの進化

・背景

国際ネットワークによる熱帯林の共同研究

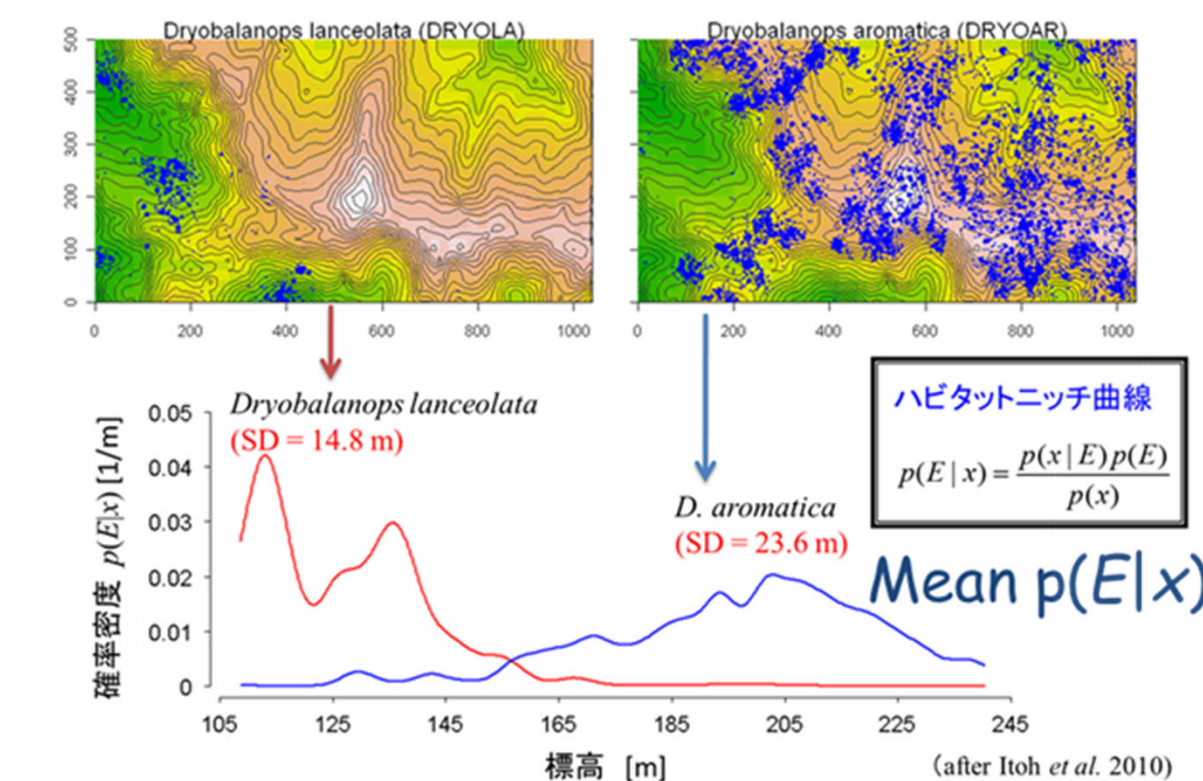


(from <https://naturalhistory.si.edu/research/botany/research/plant-dna-barcode-project/plant-dna-barcode-project-introduction>)

- ボルネオ島の熱帯雨林樹木を対象に**多様性の維持と共存**について調べている
- 過去、東南アジアにおいてボルネオ島は多様性の供給源であった

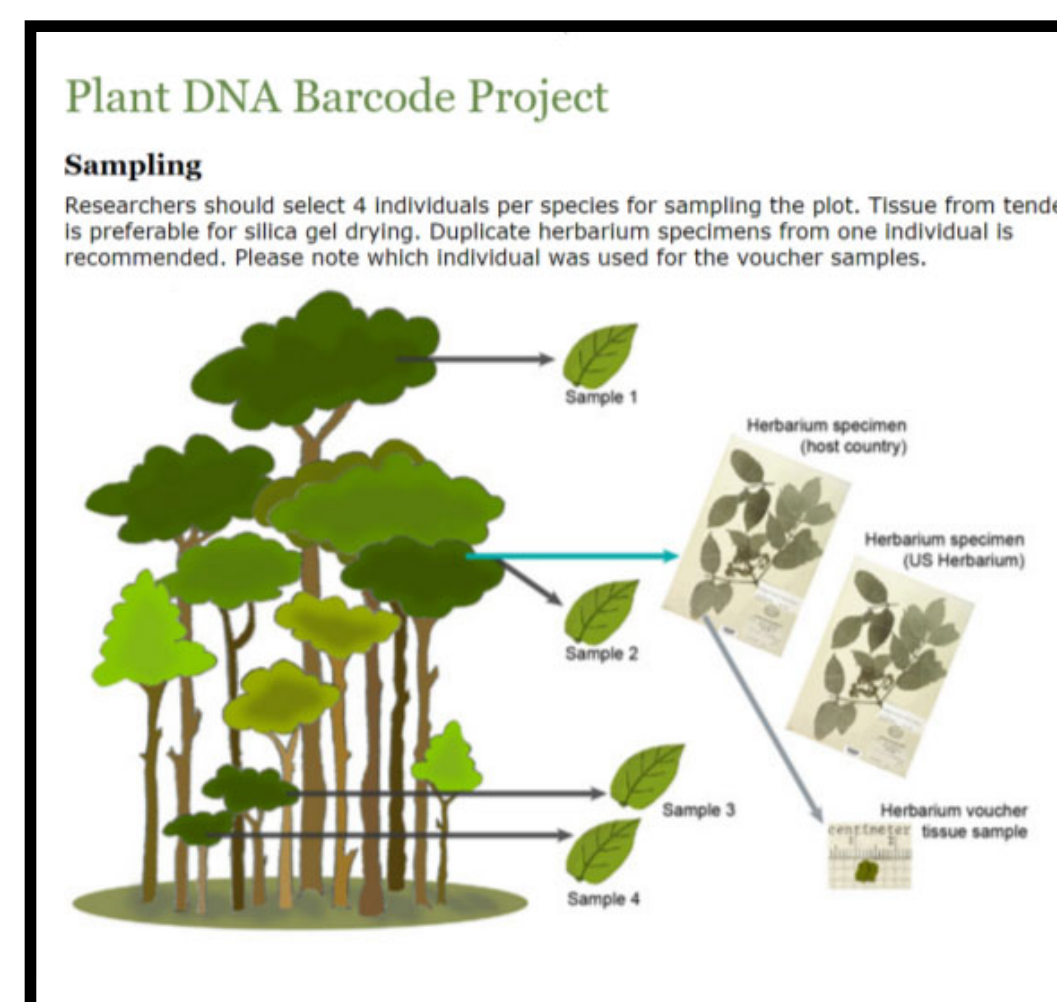


調査区の林冠の風景 2016年9月



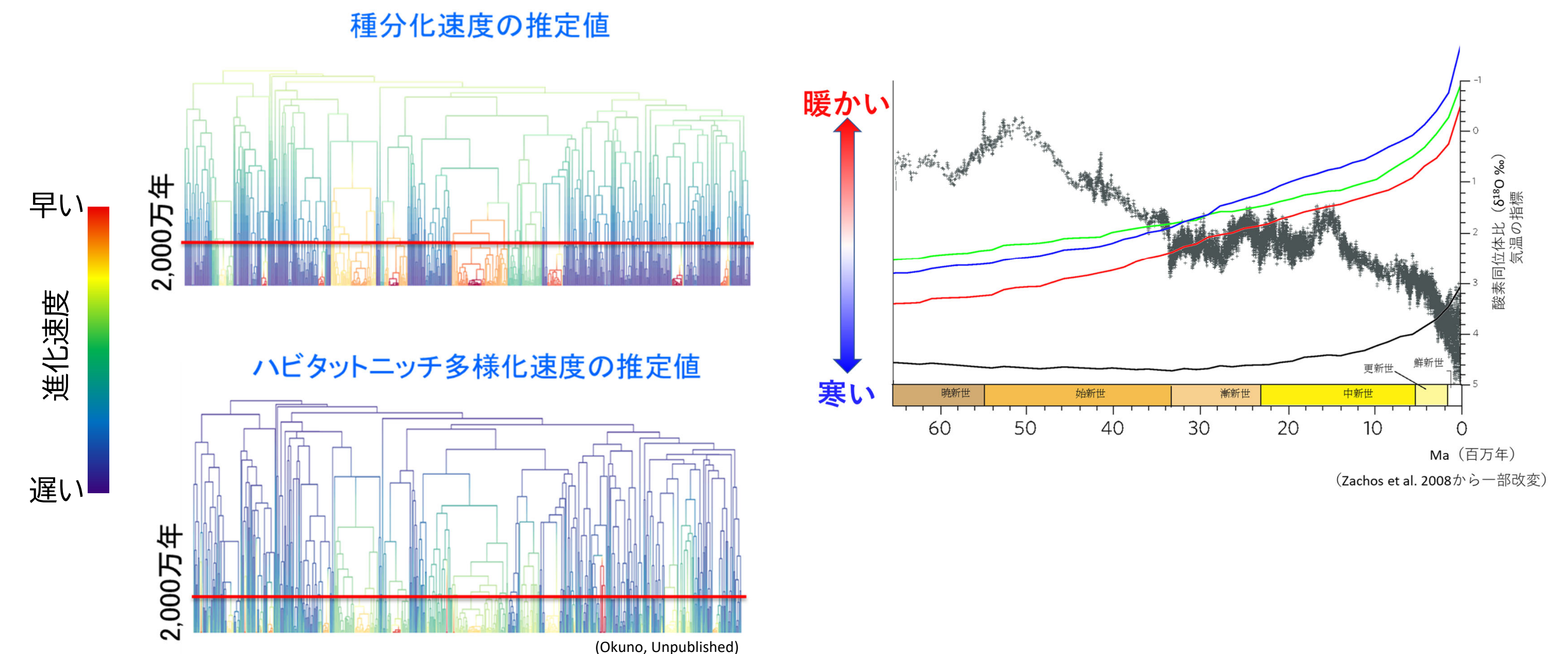
近縁な2種が調査区内の微小な環境の違いに応じて住み分けている

- 52haの調査区に約40万本、1200種の樹木が生育する**きわめて多様性の高い森林**
- 種の共存について、**生態的地位(ニッチ)の違い**が重要であることが分かってきた



- DNAバーコーディングを使って系統関係を推定し、**ニッチの進化過程**を調べている

・ニッチの進化過程と過去の気候変動



- 種分化速度やニッチの多様化速度が2千万年前以降にみられ、過去の地形や気候変動の時期と重なる
- **過去の環境の変化**が現在のボルネオ島の種多様性を生んだ可能性がある

・熱帯雨林研究における課題と展望



国立公園隣のオイルパームプランテーション開発の様子. 2011年8月



(from <http://www.kurs50008.sakura.ne.jp/sarawak/>)

現在進行中の、日本-マレーシアが共同で進める生物多様性資源の多目的利用プロジェクト

- 基礎的な研究が進み生物多様性について理解が進む一方、保全は**十分に進んでいないとは言えない**
- 得られた生物学的な知見を**社会に還元する仕組み**が必要
- 保全対象地域の社会を理解し、実現可能な施策を行うことが重要